

4. 活動報告

4. 1 会議録

(1) 第1回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成17年12月13日（火） 15時00分～17時20分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者（委員）

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	教授	瀬藤 一起
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
海洋研究開発機構地球内部変動研究センター	プログラムディレクター	金田 義行
防災科学技術研究所	総括主任研究員	堀内 茂木
仙台管区气象台 技術部	地震情報官	青木 元
東北大学大学院理学研究科環境動態論講座	教授	箕浦 幸治
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人

(オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	和田 弘人
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	碓井 勇二
東北大学大学院理学研究科・理学部・理学研究科事務部	事務長	渋谷 幸雄
東北大学大学院理学研究科 理学部・理学研究科事務部	事務長補佐	早坂 英美
東北大学大学院理学研究科 理学部・理学研究科経理係	経理係長	四ノ宮祐一
東北大学大学院理学研究科 理学部・物理系専攻事務室	室長	佐々木貞之
気象庁地震火山部地震津波監視課	調査官	田中 昌之
東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター	教授 藤本博巳、助教授 松澤 暢、助手 西野 実 研究員 内田 直希、博士課程後期 山本 揚二郎	

議事概要

議事次第に入る前に、委員の出欠席ならびに配布資料の確認が行われた。なお、以下の追加資料も配布された。

追加資料：文科省 概要書
 東北大 提案書・業務計画書

その後、出席者の自己紹介が行われた。

1. 今後の重点的調査観測について（文科省：碓井） 概要書
活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とする重点的調査観測について、説明があった。

海溝型地震の重点的調査観測の対象地域として、予測地震規模：M7.5前後、30年以内の発生確率：99%という地震発生の可能性の高い宮城県沖地震を取り上げた。また、本委託事業について重要視しているので、委託事業の成果そのものは文部科学省に帰属するが、一方で成果は積極的に学会等に発表して欲しいと説明があった。

2. パイロット的重点調査観測のレビュー（東北大理：長谷川） 資料17-1-0
今回の宮城県沖重点調査観測の研究を行う経緯を知っていただくために、過去における宮城県沖地震（1936年以降）と8/16に起こった宮城県沖地震を比較するなど、H16年度まで3年間にわたって行ってきたパイロット的重点調査観測、H17年度突発災害（科研費）の研究報告を行った。

3. 8/16の宮城県沖の地震と過去の宮城県沖地震との比較（仙台管区气象台：青木） 資料17-1-1
8/16前後の地震活動（12/11までを調査）、1923年から2005年12月11日までの地震活動について震度と津波、M6以上の地震などを比較しながら説明した。8/16の地震は想定震源域を一部破壊しただけであり、今後、どの程度の大きさのアスペリティが残っているか今回研究が行われる重点調査観測での命題になると説明があった。

4. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現（東北大理：日野） 資料17-1-2・3
金沢委員（東大地震研）が欠席のため、日野委員が長期海底地震観測・短期海底地震観測の両方の説明を行った。

今回の宮城県沖重点調査観測では2種類の海底地震計を用い、そのうち長期型OBS（1年用）をモニタリングに対応可能な連続的データの取得のために運用する。そのため観測点の増強（15観測点）を行う。また、短期型OBS（3ヶ月用）は長期観測網の補助に使用し、活動度に応じた機動的運用をすることを説明した。

また、今後も気象庁と協力をしながら、5年間で海底地震観測の充実を図るつもりであることを説明した。

5. 仙台・石巻平野における地質調査に基づく過去の活動履歴の把握（産総研：岡村） 資料17-1-4
仙台・石巻平野における地質調査の全体計画について説明を行った。H17年度の計画としては、仙台平野の中南部及び石巻平野西部を中心に調査し、約1000年前に降下した十和田起源火山灰の分布を明らかにする。また津波来襲時の海岸位置を特定し、津波の浸水距離を推定する。さらに環境変動の影響を受けていない本調査に適した地点を見つけるために、仙台平野で調査を実施することを説明した。

6. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

（東北大理：今泉） 資料17-1-5

宮城県沖地震や三陸沖の地震の活動履歴を、地質学的調査により解明することを目的とし、今後5年間の活動計画を説明した。

H17年度は津波堆積物の採取に成功した三陸沿岸の大槌地区周辺の内湾で音波探査調査を行うとともに、対比するために宮古湾音波調査、大槌町吉里吉里地区でのボーリング・ジオスライサーによる堆積物採取調査と年代測定を行うことを説明した。

7. 仙台圏における高精度強震動評価の実現（東大地震研：瀨瀬）

資料17-1-6

H19年度から21年度にかけて本計画で研究を行うことを説明した。速度型強震計を用いた観測を行い、そのデータを他のサブテーマで得られる震源域の情報や、過去の宮城県沖地震等のインバージョン解析結果を総合して、強震動評価のための震源モデルを構築する。また、表層増幅率地図を作成する。それらを用いて仙台圏などの強震動評価の高精度化を図ることを目的とすることを説明した。

8. 運営委員会規則の承認

佐藤委員長より、第5条 2に基づき、委員長代理を東北大理：海野教授にお願いし、了承された。

作成者：事務局 飯淵 みか

(2) 第2回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成18年3月30日(木) 10時25分～11時50分

場 所 エルパーク仙台 セミナー室

出 席 者 (委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	教授	金沢 俊彦
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	教授	瀬瀬 一起
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
海洋研究開発機構地球内部変動研究センター	研究員	藤江 剛

(金田代理)

防災科学技術研究所	総括主任研究員	堀内 茂木
仙台管区气象台技術部	地震情報官	青木 元
東北大学大学院理学研究科環境動態論講座	教授	箕浦 幸治
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人

(オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	和田 弘人
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	碓井 勇二
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	振興係員	井上 祐樹
東北学院大学教養学部地域構想学科	教授	松本 英明
大阪市立大学大学院理学研究科都市地盤構造学講座	助教授	原口 強
千葉大学理学部地球科学教室	助教授	宮内 崇裕
海上保安庁海洋情報部航法測地室	主任衛星測地調査官	藤田 雅之
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	松澤 暢

議事概要

議事次第に入る前に、第一回議事録を終了までに見ていただき、修正・確認をお願いした。また、委員会の時間が90分ということで、一人当たり20分の持ち時間をお願いをした。

1. 来年度の全体計画について(文科省:碓井)

H18年度の本事業の予算額等について説明があった。また研究成果については、わかりやすい形で社会に還元していただきたい旨の説明があった。

2. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東北大理:日野) 資料17-2-0・1

東大地震研が担当する内容も含め、H17年度の成果についての報告があった。8月16日に発生した地震の前後におけるプレート間すべりの状況を、海底地震観測、相似地震観測、GPS観測から推定した結果が報告された。また、H18年度も気象庁と協力をしながら、引き続き海底地震観測の充実を図るつもりであることを説明した。

3. 仙台・石巻平野における地質調査

(産総研：岡村) 資料17-2-2

仙台・石巻平野における地質調査の報告があった。H17年度は、水神沼・山元町・亘理町・仙台空港周辺において調査を実施し、各地において得られた地質サンプル中に約1000年前に仙台平野を襲った貞観の津波による津波堆積物を認めることができたことが報告された。

4. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

(大阪市立大理：原口) 資料17-2-3

H17年度の業務実施状況ならびに成果についての報告があった。H17年度は、大槌地区周辺で音波探査調査およびボーリング・ジオスライサーによる堆積物採取調査を実施し、過去5000年間に大規模な津波イベントが約500年間隔で発生していたことが明らかになったと報告された。

5. 第1回運営委員会議事録の承認

特に訂正・意見等がなかったので、議事録は承認をされた。

6. 成果報告書について（文科省：碓井）

平成17年度の成果報告書は、以下のスケジュールで進めたい。

4/24までに1部作成し、文部科学省の担当者に提出。

5/17までに文部科学省は修正事項を連絡。

5/30までに、H17年度成果報告書を3冊作成し、文部科学省に提出。

なお、東北大は再委託分も合わせて成果報告書を取りまとめる。

作成者：事務局 飯渕 みか

(3) 第3回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成18年9月28日(木) 14時00分～16時30分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者(委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	教授	瀬藤 一起
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
海洋研究開発機構地球内部変動研究センター	研究推進スタッフ	伊藤 亜妃
(金田代理)		
仙台管区气象台技術部	地震情報官	内藤 宏人
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人
(オブザーバー)		
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	石関 隆幸
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	小河原 隆広
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	三浦 哲

議事概要

1. 挨拶

長谷川主査(東北大理)より、開会の挨拶があり、佐藤委員長(東北大理)の司会により、議事を開始した。

2. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東北大理：日野) 資料18-1-1・2

金沢委員(東大地震研)が欠席のため、日野委員が長期海底地震観測・短期海底地震観測の両方の説明を行った。

H17年度に引き続き、海底地震計解析・相似地震解析・GPS解析を行って、2005年8月16日に発生したM7.2の地震前後での、プレート間固着・すべり状態の時空間変化を調べている。

H18年度計画でも、引き続き長期・短期OBSの観測態勢をH17年度と同様に行っている。

3. 仙台・石巻平野における地質調査に基づく過去の活動履歴の把握

(産総研：岡村) 資料18-1-3

H18年度の仙台・石巻平野における地質調査の計画について説明を行った。仙台平野側では、昨年度調査試料の年代測定と解析がほぼ終わり、新たに鳥の海のジオスライサー調査を行った。

石巻平野側に関しては、秋以降、津波堆積物追加調査を行う。

4. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

（東北大理：今泉） 資料18-1-4

H17年度宮古周辺のジオスライサー調査を行ったところ、1000年以上前の、古い堆積物しかみつからなかったため、H18年度は、大船渡市周辺でジオスライサー調査を行った。

その結果、チリ地震津波らしき堆積物がみつき、他の歴史時代に記録が残っている規模の大きい津波に伴う堆積物の同定とめざす。

5. 宮城県沖地震震源域周辺の最近の活動状況（東北大理：三浦）

陸域地震 GPS 連続観測データを用いた、8/16の地震余効すべりの時空発展と過去の地震活動に関する調査結果を報告した。

6. その他（文科省：小河原）

H18年度の予算についての連絡があった。

7. 閉会の挨拶

作成者：事務局 飯渕 みか

(4) 第4回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成19年3月6日(火) 14時00分～16時20分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者 (委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	教授	金沢 敏彦
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
海洋研究開発機構海底地震・津波ネットワーク開発部	部長	金田 義行
防災科学技術研究所	総括主任研究員	堀内 茂木
仙台管区気象台技術部	地震情報官	内藤 宏人
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	今村 文彦
東北大学大学院理学研究科環境動態論講座	教授	箕浦 幸治
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人
(オブザーバー)		
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	石関 隆幸
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	宮岡 一樹
(事務局)		
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	三浦 哲
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	事務補佐	飯渕 みか

議事概要

長谷川主査(東北大理)より、開会の挨拶があり、佐藤委員長(東北大理)の司会により、議事を開始した。

1. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東大地震研：金沢) 資料18-2-1

人工地震探査により明らかにされた宮城県沖地震震源域の地震波速度構造についての説明があった。

2. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東北大理：日野) 資料18-2-2

プレート間すべりのモニタリングについて、今年度の成果についての報告があった。また、19年度のOBS観測態勢について説明があり、引き続き海底地震観測の充実を図る予定

である旨の説明があった。

3. 仙台・石巻平野における地質調査

(産総研：岡村) 資料18-2-3

仙台・石巻平野における H18 年度の地質調査の成果について報告があった。
来年度より津波シミュレーションに着手する予定であることを説明した。

4. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

(東北大理：今泉) 資料18-2-4

東北地方太平洋沿岸域における地質調査の成果について報告があった。
H19 年度は福島県・岩手県南部などで、地質調査を行う予定。

5. 第4回運営委員会議事録の承認

特に訂正・意見等がなかったので、議事録は承認された。

6. 成果報告書について（文科省：石関）

平成18年度の成果報告書は、以下のスケジュールで進めたい。
5/31までに、H18 年度成果報告書を3冊作成し、文部科学省に提出。
なお、東北大は再委託分も合わせて成果報告書を取りまとめる。

7. H19 年度計画について

主査より、H19 年度から強震動予測に関する調査研究が開始されることがアナウンスされた。

8. 閉会の挨拶

主査より、次年度も引き続き研究をお願いしますとの挨拶があった。

作成者：事務局 飯渕 みか

(5) 第5回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成19年10月10日（水） 14時00分～16時00分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者（委員）

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	研究員	木村 武志

(額瀨代理)

東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
防災科学技術研究所	研究参事	堀内 茂木
海洋研究開発機構地震・津波ネットワークセンター	研究員	有吉 慶介

(金田代理)

仙台管区气象台技術部	地震情報官	内藤 宏人
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	今村 文彦
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人
東北大学大学院理学研究科 環境動態講座	教授	箕浦 幸治
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	三浦 哲
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	助教	石山 達也
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教	伊藤 喜宏

(オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	石関 隆幸
--------------------	------	-------

議事概要

1. 挨拶

長谷川主査（東北大理）より、開会の挨拶があり、佐藤委員長（東北大理）の司会により、議事を開始した。

2. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

（東北大理：日野） 資料19-1-2

H18年度に引き続き、海底地震観測データの解析・相似地震解析・GPS解析に基づいて、2005年8月16日に発生したM7.2の地震前後でのプレート間固着・すべり状態の時空間変化の推定を行った。

H19年度計画でも、引き続き長期・短期OBSの観測を11ヶ所で行っている。

3. 仙台・石巻平野における地質調査に基づく過去の活動履歴の把握

(産総研：岡村) 資料19-1-3

すでに H19 年度分の仙台・石巻平野における地質調査は終了し、これまで行った津波堆積物の調査結果に基づいて、貞観地震の津波シミュレーションを始めた。

4. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

(東北大理：今泉) 資料19-1-4

H19 年度は H18 年度の追加調査に引き続き、陸前高田市周辺でジオスライサー調査を行う。また、常磐海岸沿いでは、H20 年度以降の調査に先立ち、予測調査を行う。

5. 仙台圏における高精度強震動評価の実現 (東大地震研：木村) 資料19-1-5

H19 年度は過去の宮城県沖地震の断層破壊過程のモデル構築、宮城県中北部域の地下構造モデルの構築を行う。

7. 閉会の挨拶

作成者：事務局 飯渕 みか

(6) 第6回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成20年3月13日(木) 13時00分～16時00分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者 (委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	教授	金沢 敏彦
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	研究員	木村 武志

(瀬藤代理)

東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
防災科学技術研究所	研究参事	堀内 茂木
海洋研究開発機構地震・津波ネットワークセンター	研究員	有吉 慶介

(金田代理)

仙台管区気象台技術部	地震情報官	内藤 宏人
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人
千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻地球科コース	教授	宮内 崇裕
大阪市立大学大学院理学研究科都市地盤構造学講座	准教授	原口 強
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	松澤 暢
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	助教	石山 達也
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	研究員	飯沼 卓史

(オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	石関 隆幸
--------------------	------	-------

議事概要

1. 挨拶

長谷川主査(東北大理)より、開会の挨拶があり、佐藤委員長(東北大理)の司会により、議事を開始した。

2. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東北大理:飯沼) 資料19-2-1

H19年度の海底地震観測について、長期海底地震計設置を行ったとの報告があった。

3. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東北大理：飯沼) 資料19-2-2

海底地震観測+相似地震・GPS 観測データ解析に基づく H19 年度の成果について報告があった。

4. 仙台・石巻平野における地質調査に基づく過去の活動履歴の把握

(産総研：岡村) 資料19-2-3

仙台・石巻平野における H19 年度の津波堆積物調査と津波シミュレーションに関する成果について報告があった。

5. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

(東北大理：今泉) 資料19-2-4

H18 年度までの研究結果と、H19 年度の津波堆積物学調査による成果について報告があった。

6. 仙台圏における高精度強震動評価の実現 (東大地震研：木村) 資料19-2-5

宮城県沖地震による強震動予測に関する研究開発の H19 年度の成果について報告があった。

7. その他

長谷川主査（東北大理）より、今年度で課題代表を辞し、来年度からの課題代表を松澤暢氏（東北大理）にお願いするとの報告があった。

日野委員より、H21 年度の研究計画は、最終年度になるため、早めに研究計画を決定し、H20 年度の第一回運営委員会（9 月予定）までに、研究計画をまとめたとの発言があった。

8. 閉会の挨拶

作成者：事務局 飯渕 みか

(7) 第7回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成20年11月10日（月） 13時00分～16時00分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者（委員）

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	松澤 暢
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	教授	金沢 敏彦
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	研究員	木村 武志
(額瀨代理)		
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	客員教授	長谷川 昭
防災科学技術研究所	研究参事	堀内 茂木
海洋研究開発機構地震・津波ネットワークセンター	研究員	有吉 慶介
(金田代理)		
仙台管区気象台技術部	地震情報官	中村 浩二
(オブザーバー)		
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	研究員	飯沼 卓史
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	北村 京子
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	吉田 昌弘

議事概要

1. 挨拶

松澤主査（東北大理）より、開会の挨拶があり、佐藤委員長（東北大理）の司会により、議事を開始した。

2. 短期海底地震観測および陸上地震・測地観測によるプレート間すべりに関する研究 (東北大理：飯沼) 資料20-1-1

H20年度の短期海底地震観測、相似地震・GPS観測について報告があった。

3. 長期海底地震観測によるプレート間すべりに関する研究

(東大地震研：金沢) 資料20-1-2

H20年度の長期観測型海底地震計購入・整備状況、海底地震観測で得られた震源分布について報告があった。

4. 津波堆積物調査に基づく地震発生履歴に関する研究

(東北大理：今泉) 資料20-1-3

H20年度の陸前高田市周辺でのジオスライサー調査の説明、H19年度の津波堆積物学調査による成果について報告があった。

5. 地質調査・津波シミュレーションに基づく地震発生履歴に関する研究

(産総研：岡村) 資料20-1-4

H20年度の調査で使用する、GRP（地中レーダー）探査について説明があった。

6. 仙台圏における高精度強震動評価の実現

(東大地震研：木村) 資料20-1-5

宮城県中北部域の強震動予測の高精度化に向けての説明があった。

7. 閉会の挨拶

作成者：事務局 飯渕 みか

(8) 第8回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成21年3月12日(木) 13時00分～16時00分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者 (委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	松澤 暢
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	教授	金沢 敏彦
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	研究員	木村 武志

(額瀨代理)

東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	研究員	飯沼 卓史

(日野代理)

海洋研究開発機構海底地震・津波ネットワーク開発部	研究員	有吉 慶介
--------------------------	-----	-------

(金田代理)

仙台管区气象台技術部	地震情報官	中村 浩二
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	今村 文彦
東北大学大学院理学研究科環境動態講座	教授	箕浦 幸治

(オブザーバー)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	三浦 哲
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査管理官	橋本 徹夫
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	北村 京子
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	吉田 昌弘

議事概要

1. 挨拶

松澤主査(東北大理)より、開会の挨拶があり、佐藤委員長(東北大理)の司会により、議事を開始した。

2. 短期海底地震観測および陸上地震・測地観測によるプレート間すべりに関する研究 (東北大理：飯沼) 資料20-2-1

H20年度の短期海底地震観測、相似地震・GPS観測の成果について報告があった。

3. 長期海底地震観測によるプレート間すべりに関する研究

(東大地震研：金沢) 資料20-2-2

H20 年度の長期観測型海底地震計の整備状況、海底地震観測で得られた震源分布と地震波速度構造について成果報告があった。

4. 津波堆積物調査に基づく地震発生履歴に関する研究

(東北大理：今泉) 資料20-2-3

H20 年度の陸前高田市周辺でのジオスライサー調査、追加調査の常磐海岸・松川浦でのジオスライサー調査の成果について報告があった。

5. 地質調査・津波シミュレーションに基づく地震発生履歴に関する研究

(産総研：岡村) 資料20-2-4

H20 年度の調査を行った仙台平野と常磐海岸の地殻変動や津波堆積物について報告があった。

6. 仙台圏における高精度強震動評価の実現 (東大地震研：木村) 資料20-1-5

仙台圏における強震動評価に向けた、動力学震源モデルやプレート上面モデル等に関する H20 年度の検討結果について報告を行った。

7. その他 (文部科学省：吉田)

来年度の予算は、5 千万円となること、また最終年度のため、成果を地震調査委員会等で発表して頂きたい旨の挨拶があった。

8. 閉会の挨拶

作成者：事務局 飯渕 みか

(9) 第9回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成21年10月9日(金) 13時00分～16時00分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者 (委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	松澤 暢
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	助教	山田 知朗
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層・地震研究センター	センター長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	教授	額 纈 一起
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震火山噴火予知研究推進センター	教授	平田 直
防災科学技術研究所	研究参事	堀内 茂木
仙台管区気象台 技術部	地震情報官	中村 浩二
東北大学大学院工学研究科災害制御センター	教授	今村 文彦
東北大学大学院理学研究科環境動態講座	教授	箕浦 幸治
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	客員教授	長谷川 昭

(オブザーバー)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	三浦 哲
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	研究員	飯沼 卓史
東京大学地震研究所地震火山災害部門	研究員	増田 徹
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	研究員	桑野 亜佐子
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査管理官	北川 貞之
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	北村 京子
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	吉田 昌弘

議事概要

1. 挨拶

松澤主査(東北大理)より、開会の挨拶があり、佐藤委員長(東北大理)の司会により、議事を開始した。

2. 仙台圏における高精度強震動予測の実現 (東大地震研:増田) 資料21-1-1

H20年度までの成果の概要と、H21年度の目的の概要として仙台圏における強震動評価に向けての説明があった。

3. 短期海底地震観測および陸上地震・測地観測によるプレート間すべりに関する研究

(東北大理：日野) 資料21-1-2

平成21年度の上半期実施内容と今年度の短期海底地震観測、相似地震・GPS観測の概要と成果について報告があった。

4. 長期海底地震観測によるプレート間すべりに関する研究

(東大地震研：山田) 資料21-1-3

平成21年度の長期観測型海底地震計の引き上げ状況、海底地震観測で得られた震源分布について報告があった。

5. 津波堆積物調査に基づく地震発生履歴に関する研究

(東北大理：今泉) 資料21-1-4

平成17年度～20年度の成果、平成21年度の計画、5年間のまとめについて報告があった。

6. 地質調査・津波シミュレーションに基づく地震発生履歴に関する研究

(産総研：岡村) 資料21-1-5

平成20年度までの調査・研究成果と、今後の研究計画について報告があった。

7. 閉会の挨拶

(文部科学省：北川)

最終年度の報告書を期待していると挨拶があった。

作成者：事務局 飯渕 みか

(10) 第10回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成22年3月23日(火) 13時00分～16時00分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

出席者 (委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	松澤 暢
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	教授	金沢 敏彦
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層・地震研究センター	センター長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	教授	額 纈 一起
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
海洋研究開発機構リーディングプロジェクト 地震津波・防災研究プロジェクト	プロジェクトリーダー	金田 義行
東京大学地震研究所地震火山噴火予知研究推進センター	教授	平田 直
防災科学技術研究所	研究参事	堀内 茂木
仙台管区气象台技術部	地震情報官	中村 浩二
東北大学大学院理学研究科環境動態講座	教授	箕浦 幸治
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	客員教授	長谷川 昭

(オブザーバー)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	准教授	三浦 哲
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	研究員	飯沼 卓史
大阪市立大学大学院理学研究科都市地盤構造学講座	准教授	原口 強
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	准教授	篠原 雅尚
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査管理官	北川 貞之
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	北村 京子
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	宍倉 正展
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	吉田 昌弘

議事概要

1. 挨拶

松澤主査(東北大理)より、開会の挨拶があり、佐藤委員長(東北大理)の司会により、議事を開始した。

2. 短期海底地震観測および陸上地震・測地観測によるプレート間すべりに関する研究

(東北大理：飯沼) 資料21-2-1

平成21年度のGPSデータ解析結果の成果について報告があった。

3. 長期海底地震観測によるプレート間すべりに関する研究

(東大地震研：篠原) 資料21-2-2

平成21年度の長期観測型海底地震計の回収、成果報告と5年間の研究成果について報告があった。

4. 津波堆積物調査に基づく地震発生履歴に関する研究

(東北大理：今泉) 資料21-2-3

平成21年度の三陸海岸・常磐海岸等での調査研究の研究成果と5年間の研究成果について報告があった。

5. 地質調査・津波シミュレーションに基づく地震発生履歴に関する研究

(産総研：岡村) 資料21-2-4

平成21年度の年代測定・津波波源モデル構築の研究成果について報告があった。

6. 仙台圏における高精度強震動予測の実現 (東大地震研：瀬瀬) 資料21-2-5

仙台圏における強震動評価に向けた、動力学震源モデルやプレート上面モデル等に関する平成21年度の研究成果について報告を行った。

7. その他

(文部科学省：吉田)

平成21年度の成果報告書の提出スケジュール、総括成果報告書の提出スケジュールについて説明があった。

(文部科学省：北川)

平成21年度の成果報告について、業務計画書に沿った報告をして欲しいと説明があった。

8. 閉会の挨拶

作成者：事務局 飯渕 みか